

二条中通信

第 23号
二条中学校
H20. 12. 4
文責：直江秀樹

*【学校教育目標】 学ぶ楽しさを実感し、夢を持ち夢を実現するために努力する生徒の育成

～ 人権週間始まる ～ 「世界人権宣言」60周年



12月4日から10日までの1週間は、「人権週間」です。本校の人権学習の一環として、先日11月28日の全校集会で、私から生徒のみなさんに話をしました。そのときの内容を抜粋して掲載します。ご覧いただきまして、改めて人権の大切さを見直す機会にしていだければありがたいと思います。

「人権」が大切だと言いますが、世界中の人がその大切さを肌で感じたのは数千万人の生命が失われた戦争のあとでした。人類史上経験したことのない悲惨な第2次世界大戦の教訓から、国際連合では戦後間もない1948年(昭和23年)12月10日に第3回総会で、「人類は二度とこんな過ちを繰り返してはいけません。人それぞれの生き方を人間の当然の権利として認め合い、お互いが力を合わせて戦争のない平和な世界を築いていくために心から反省し努力するべきである」と『世界人権宣言』を發表しました。今年はその「世界人権宣言」發表から60周年の節目を迎えました。第1条には「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利において平等である。人間は、理性と良心とを授けられており、互いに同胞(兄弟姉妹)の精神を持って行動しなければならない」と記されています。国連は、1950年第5回総会で、この宣言を採択した12月10日を「人権デー」と定め、世界中で記念行事を行うことが決定されました。

日本でも、12月4日から10日までを「人権週間」として毎年、人権意識を高めるための行事が広く行われています。京都市では、毎年12月を「人権月間」とし、より一層幅広い取り組みを積極的に進めています。そして、二条中学でもこの時期に、人権の大切さを学ぶ機会を作っているのです。

さて、11月5日の朝。アメリカ大統領選挙の結果、黒人のバラク・オバマ上院議員47歳が、対立候補のマケイン上院議員を大差で破り第44代アメリカ合衆国大統領に就任するというニュースが世界を駆け巡りました。アメリカが独立を勝ち取った精神は1776年の『独立宣言』の文言です。「すべての人間は平等に造られている」「誰も侵すことの出来ない権利として生命・自由・幸福の追求の権利がある」。基本的人権は万人に与えられているのだ、植民地の人間も除外されていないのだ。すべての人間は平等だと主張して、横暴な権力支配から独立したのです。しかし、奴隷制度を残したままの独立であり、リンカーン大統領の奴隷解放宣言などがありました。黒人差別はなくならなかったのです。今回、232年に及ぶアメリカの歴史史上初めて黒人の大統領が誕生したことは、とても大きな意味があります。これまで長い間、白人による支配が続いたアメリカで黒人大統領が誕生したことは世界の人権の歴史に大きな1ページを加えたこととなります。そして、オバマ上院議員がこの間、尊敬を込めて何度も名前をあげたのは、マーティン・ルーサー・キング牧師です。



1948年に『世界人権宣言』が發表されてから7年後の1955年12月1日。アメリカ南部のアラバマ州で42歳の黒人ローザ・パークスさんは仕事を終えて帰宅するため、市営のバスに乗った。当時、レストランなどあらゆるところで黒人と白人は隔離されていました。バス内は、白人席と黒人席に分けられ、中間の席には白人がいなかったときには黒人が座ってよいことになっていました。黒人席が一杯だったのでパークスさんは中間の席に座っていた。その後白人が乗ってきて座席が無くなってきたので、運転手はパークスさんに席を立つように言いましたが、彼女はそれを拒否しました。運転手が「なぜ立たない」といったので、「立ちません」と言ったら「それなら警察を呼んで逮捕させるぞ」と言ってパークスさんは逮捕されました。翌日釈放されましたが、罰金刑を言い渡されました。彼女は、黒人だから白人のために犠牲になるのは当然だという身勝手な法律に「ノー」と、言ったのです。ここから、マーチン・ルーサー・キング牧師をはじめとする人々が立ち上がり、すべての黒人にバスボイコット運動が始まりました。黒人であるという理由をつけて、暴力的で非人間的な不正に対して、キング牧師は非暴力で対抗したのです。これは381日間続き、最高裁判所の判決でアラバマ州の人種隔離法が法律違反であるとの判決が下されました。

そして1963年8月28日ワシントン大行進で、25万人の大集会が行われました。キング牧師は力強く呼びかけました。『わたしには夢がある。いつの日にか、わたしの4人の幼い子ども達が肌の色によってではなく、人となりそのものによって評価される国に住むときが来るという夢が。』『不当な差別をなくすことはできる。いつの日か、黒人であるとか白人であるとかで人を選別するのではなく、だれもが自由を獲得できる社会は実現できる。わたしには夢がある。』と力強く呼びかけました。夢をあきらめない勇気の人がいて、歴史は動いてきたのです。その結果、翌年公民権（市民としての権利を保障する）法の成立につながりました。いくら人権宣言が行われていても、人々の心の中に、生き方の中に「その行動は人間として正しいのか」という考えがなければ意味がありません。自由や人権は待っていて獲得されたのではなく、勇気ある行動から獲得されたのです。

差別の本質は、権力を持った人間が他人の犠牲や不幸の上に、自分の満足感を満たすために作った制度です。それを変えるためには、「人間として」自分がされていやなことを、いやですと相手に伝える勇気を持つことが必要だったのです。

ある小学校でこんなことがありました。A君がいました。その生徒に対して、クラスの生徒たちの接し方が気になるのです。A君をよけて通る。A君がおおきな箱を抱えていたので「君たち手伝ってあげて」と担任の先生が言ったら、A君をそっちのけにして、BさんCさんの二人で運び始めるのです。何かあると思って、Bさんに話を聞いたら初めは何でもないとはいっていたけれど、実はA君のことをたくさんの方が無視したり、いじめたりしている。自分も前にいじめられたので、よくないことだと思っていたけれど同じようにしていたと話してくれました。翌日、A君は休みました。クラスみんなに先生が「いじめ」とかないかと聞いたら、そんなないよと言いましたが、BさんはA君のことを話してくれました。するといろんな生徒から話が出てきました。A君はくらいから、遅いから、忘れ物をするからなど。しかし、明るくても、成績がよくても、走りが速くても、いつもきちんとしていても、そのことでいじめられたことがあると言う生徒たちの発言が出てきました。つまり、理由など何でもいいのです。しかし、どれ一つとってもいじめていい理由なんかありません。反省したみんなは、翌日からA君に対して親切運動を行い出しました。

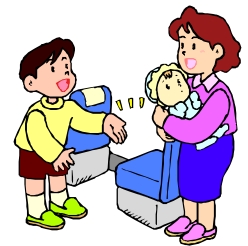
一週間ほどして先生の所に多くの抗議が出てきました。「A君はせっかく挨拶しても、“うん”とか、“ふん”とかいい加減な返事しかしない。」「はっきりした意見を言わない」「あほか、あっちいけ」とか言う。思いあまって、学級で話し合いをしたそうです。いくつかの意見が出ました。黙っていたA君がおずおず立って話し出しました。「一週間くらい前から急にみんなが親切になって、朝おはようと言ってくれたり、教室が変わるときに声をかけてくれたりして、うれしかった。そやけど、わからんのやけど去年からずっとからかったり、いじめたりしてたのに急にどうなったんや。これまでいっぱいいじめてたのに。そう思うと、ありがとうと言いたい気持ちがあるのに、あっちいけ。とか、あほかと言ってしまった。」といいながら泣き出したそうです。私は、どきんとしました。

「自分は差別なんかしていない。友達は大切にしている。どの人の人権も大切にしないといけない。」ここにいる君たちだけではなく、多くの方がそう思っています。しかし不思議ですね。世界人権宣言から60年もたっているのに「人権週間」を設けて差別をなくそうと訴えなければならないのです。そのくらい、根の深いものだといえるでしょう。

勇気ある人々が、それこそ血のにじむような努力と団結で獲得した「人権を守る思想」は、時代がすすむにつれて世界中に広まってきました。しかし、私たちの周りには「同和問題や、在日外国人の人に対する差別、障がいのある人に対する差別、女性や高齢者に対する差別、公害や薬害を受けた人に対する差別、その他いじめやいやがらせ」なども含めて多くの課題があります。差別は人間が作ったものです。人間が作った差別なら、人間が解決しなければなりません。簡単なことではありませんが、君たちが各学年で人権学習を行う意味はここにあります。

最後に、論語の言葉を紹介します。「己の欲せざるところを人に施すなかれ」。中国の大思想家である孔子の言葉です。簡単に言えば、「自分がされていやなことは、他人にもしてはならない」ということです。しかし、先生は君たちに期待します。「己の欲せるところを人に施せ」。つまり「自分がしてもらったらうれしく感じることを感謝できることを、進んで他の人のためにしていこう。」ということなのです。

この学習を通して、自分自身を見つめなおし、今の自分ができる最善をつくしてほしいと思います。もちろん良くないところは直すのです。今の社会に残っている課題を、人と人との信頼というネットワークによって解決していく青年として育ててほしいと思います。ありがとうございました。



*生徒の皆さんは、集会の内容を思い出して読んでください。